

拝啓 今年も早や10月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。やっと涼しい秋を迎えました。今年の夏の暑さ、蒸し暑さは、異常だったと思いました。お元気でお過ごしになられたでしょうか。近所の公園では、きんもくせいはまだ咲いていますが、例年より、2週間ぐらい遅いように感じます。

今回は、小西芳之助先生の『ガラテヤ人への手紙講解説教』からの引用の第4回目で今回のエンカウンターの4頁には、次のように書かれています。

「パウロの福音は、十字架によるイエスの贖い

「福音の内容」というものは、イエス・キリストが十字架につけられて、復活し給うたことであります。これが福音の内容であります。イエス・キリストが十字架について、我々の罪とがを贖い、我々を神の子として、永遠の生命を与えて下さった。これは、イエスが復活し給うたことによって明らかとなった。十字架につけられた、復活された、ということがパウロの福音の全部であります。これを、ガラテヤ人は、始め信じたが、ユダヤ教の信者が来て、それだけでは不十分であり、ユダヤの律法を守ることに、特に、割礼を受ける必要があると言ったために、彼らは十字架の信仰から離れて、他の方、律法の方に移りかける状態にありました。…

パウロのいう福音は、十字架につけられたイエスということだけであります。パウロの信仰は、十字架の贖いであります。」

小西先生の言われるとおりの福音の内容は、イエス・キリストの十字架と復活と信じさせて頂こうと思います。

この一月に読んだ『一日一生』等の本から、感銘を受けた言葉を紹介します。

小西芳之助先生『主の御名を呼ぶ』10月14日

「有名な英語の先生であった神田乃武先生はこう言われた。「平凡なことをなさんと試みなかれ。平凡なことを非凡に素晴らしくなさんとこころみよ」と。

私は中学時代にこれを暗記した、しかし、どうしても忘れることはできなかった。歳をとれば取るほど、この文句が好きになる。

私達は、偉大なことにして、非平凡なことをなしたいと思う。しかし平凡なことを素晴らしくなさんと努力することなしには、偉大なことをなすことは出来ない。そのわけは、平凡なことを素晴らしくなさんとすることによってのみ、偉大なことをなす力が与えられるからである。」

新渡戸稲造先生『一日一言』10月21日

「西暦1805年の今日、英将ネルソンが戦死する間に、「予は予の義務を尽くせり」と叫んだ。際限なきは勤めなり。一つ済むと思えばまた一つ。それを果たせばまた新たに起こる。かく、勤めは無数なれども、ありがたき事には、幾つもある勤めが同時には来ぬ。故に一つずつ尽くして行けば、たくさん余りありとも、天も人も己も責めぬ。」

松下幸之助先生『道をひらく』「ファンがある」

「ファンというものはありがたい。相撲でも、それがひいきの力士であったなら、勝てば勝ったで無性に喜ぶし、負ければ負けたで心から同情する。欲もなし得もなし。相手のどこかに、自分の好む良さを見つけて、その良さにただ懸命に応援するのである。…

考えて見れば、私たちにも又ファンがある。芸能界だけでは無い。個人にも、お店にも、また会社にも、それぞれにそれぞれのファンというものがあるのである。そして陰に陽に力強い声援がおくられているのである。

おたがいに、この事実を改めて認識し直したい。そして、このありがたい自分のファンを、もっと大事にし、その好まれている自分のよさを、精いっぱい伸ばすようにつとめたい。そこに個人の、お店の、そして会社の繁栄の鍵がある。」

内村鑑三先生『統一日一生』9月29日

「イエスよ、われらにまたわれらのために供えられし天職あり。われらはこれに忠実なれば足れり。われらは光明を汝に仰ぐ者、もちろんなんじの義の太陽なるがごとく、自身光りを放ち得るものにあらず。されどもイエスよ、我ら、なんじの光に照らされて、われらも光輝を放ち得るなり。汝に頼るべき我らは、この国この民に汝の生命を分かちうるなり。汝願わくはわれらを恵みて、われらすべてをして小キリストたるを得さしめよ。」

バークレー先生「ウィリアム・バークレイの一日一章」(9月6日)

「素晴らしい瞬間 (2)

人生を人生たらしめているものはその万華鏡的な性格である。…

人生が一種類の経験だけで成り立っているとしたら、人生を人生たらしめる特質は消えてしまうであろう。人生が悲しみと喜び、楽しみと嘆き、笑いと涙、沈黙と歌によって寄って織り為されているからこそ、人生は人生であり得るのである。人生の内容に充実を与えているものは、その色とりどりの織地なのである。

涙を知らない人生は、無限の価値をもつあるものを失った人生である。「日照りつづきは砂漠を作る」と言われるとおりである。悩みを知らぬ人生、疑いを持ったことのない人生、ぜいたくと安楽だけしか知らぬ生活、こういったものは、無限の価値を持つある肝腎なものを、悲しいまでに欠落させてしまっている。

どんなに望んだとて時計の針を止めることは出来ない。人生は進まねばならず。瞬間は全く過ぎ去ってしまうのではない。それは記憶として蓄えられたものの一部となるのである。

素晴らしい瞬間は、記憶として蓄えられる。そして、人生がわびしく厳しい時に、我々はそこへ戻って行って、暗い日を生きるための陽光と力を見出すことができるのである。

カウマン先生『山頂を目指して』9月19日

「神はある定まった人を、ある定まった時に、ある定まった地位につかせようとしておられる。その地位は、その人、その時でなければ、他の何人も占めることの出来ないものである。

あなたの地位がどのようなものであろうと それはあなただけのものではない。あなたをそこに送られた方のものだ。

私たちの人生は
力強い働きをするための
神からの小さな貸与物にすぎない。
それがみこころ
をなすために
用いられるとき、
私たちは天、星と一致する。

10月14日(土)、本誌読者の佐藤昭夫さんとたちと一緒に那須・茶臼岳に行きました。帰りに温泉に立ち寄った時、財布を落としたことに気が付きました。佐藤昭夫さんの機転で、那須岳ロープウェイ会社の電話してみなさいという勧めで、ロープウェイ会社に電話したところ、財布の届けがある、と言われました。山の中で落とした財布ですから、出て来ることは無理だろうと思い電話したのですが、車でロープウェイ会社まで戻ってもらい、無事落とした財布を受け取ることが出来ました。

新型コロナは、第5類という扱いになりましたが、最近の電車の中とかスーパーでは、まだマスクをされているの方が半分ほどおられます。しばらくは、マスク、手洗い、うがいなどは、必要と思われるときはに実行されて、十分ご注意下さるようお祈り申し上げます。

10月22日

山口周三

エンカウターの読者各位